

【報告事項】

1 2月定例県議会の結果について

（総務部）

警察本部から「2月20日（金）から開催された2月定例県議会は、33日間の日程を終え、3月24日（火）に閉会した。本会議においては、ニセ電話詐欺等への対応、性的ディープフェイク問題及び通学路における交通安全対策について質問が行われた。警察委員会においては、令和7年度福岡県一般会計補正予算等4件が、予算特別委員会においては、警察費を含む令和8年度福岡県一般会計予算が審査され、いずれも原案のとおり可決された。」旨の報告があった。

公安委員から「性的ディープフェイク問題の質問の主旨は何か。」旨の発言があり、警察本部から「画像を性的に加工して拡散する被害が深刻化している状況を踏まえたものである。」旨の説明があった。

2 F P P 飲酒ハンドブックの作成について

（警務部）

警察本部から「飲酒に関する社会的傾向、職員の意識の変化等を踏まえ、全職員向けとして「F P P 飲酒ハンドブック」を作成した。このハンドブックは、飲酒に関する意識改革、健康管理に配慮した飲酒の在り方、改善に向けた行動を促進する内容などについて示したものであり、第1章が飲酒に関する意識改革と健康管理、第2章がアルコール依存状態に気付いたときの早期対応のポイント、第3章が職場におけるサポートプログラムとなっている。今後は、各所属においてハンドブックを活用した教養を実施し、飲酒に関する意識改革や健康に配慮した飲酒のあり方などについて周知・浸透を図っていく。」旨の報告があった。

公安委員から「ハンドブックは誰に配布するのか。」旨の発言があり、警察本部から「全職員が閲覧できるようにシステム上に掲載し、各種会議等で活用を促す指示を行う。」旨の説明があった。

公安委員から「充実した内容で、良くできている。飲酒を前提とせず、飲酒しない人は断り易くなるなど、非常に良い取組みである。」、「体質的に飲酒できない人への配慮もあって良い資料となっている。」旨の発言があり、警察本部から「飲酒以外のコミュニケーションに取り組んでいる所属もあり、飲酒に限らないコミュニケーション手段を広げていく。」旨の発言があった。

公安委員から「良い資料が出来たので、実効ある取組みをお願いします。」旨の発言があった。

3 令和7年中のサイバー事案等の情勢について

(生活安全部)

警察本部から「サイバー事案等に関する相談件数は5,556件で、前年比702件増加し、令和3年以降、高水準で推移している。「不正アクセス」に関する相談は前年から大幅に増加し、全体の約4割を占め、前年まで最も高い割合を占めていた「詐欺・悪質商法」に関する相談を上回った。検挙件数については456件で、前年比95件増加し、電磁的記録対象犯罪（電子計算機使用詐欺、私電磁的記録不正作出等）を除き、各罪種で検挙件数が増加した。」旨の報告があった。

公安委員から「SNS型投資ロマンス詐欺も含まれるのか。」旨の発言があり、警察本部から「インターネット空間を利用しているものは含まれている。」旨の説明があった。

公安委員から「この数値は公表するのか。」旨の発言があり、警察本部から「警察庁が全国の数値を広報しているほか、本県においても広報や講演等に活用している。」旨の説明があった。

公安委員から「県民に広く知らせて、防犯意識を高めてほしい。」旨の発言があった。

4 ベトナム人グループによる広域窃盗事件の捜査終結について

(暴力団対策部)

警察本部から「令和6年8月から令和7年9月までの間、福岡県内、岐阜県内等3県下において、主に空き家を対象に侵入し、現金、貴金属類等を窃取したベトナム人被疑者5人を逮捕した。邸宅侵入、窃盗等事件183件、被害総額約659万円相当を確認して、捜査を終結した。」旨の報告があった。

公安委員から「被疑者らの来日理由は何か。空き家の何を狙ったのか。」旨の発言があり、警察本部から「被疑者らは、技能実習生であり、主たる被疑者は、現時点、不法残留であった。被疑者らが狙ったのは、空き家に残された現金や貴金属である。」旨の説明があった。

公安委員から「事前確認に利用したアプリとは何か。」旨の発言があり、警察本部から「誰でも無料で使用できる地図アプリであり、古い家を探して、後に現地を下見していた。」旨の説明があった。

公安委員から「空き家は増えている状況にあり、同種事案の防止は容易でないと思われる

が、再発防止の取組もお願いしたい。」旨の発言があった。

5 春の交通安全県民運動の実施に伴う警察活動の強化について

(交通部)

警察本部から「4月6日(月)から15日(水)までの10日間、春の交通安全県民運動を実施する。4月10日(金)を「交通事故死ゼロを目指す日」として設定するほか、自転車等の交通ルールを理解・遵守の徹底、飲酒運転の撲滅など、運動の重点4点を設定し、指導取締りを始めとする街頭活動を強化するとともに、各種キャンペーンを開催するなど、啓発活動を推進する。」旨の説明があった。

公安委員から「4月1日から青切符が自転車にも適用されるようになり、対象となる違反が113種類となっているが、何が違反となるか分からず、不安に思っている人も聞く。違反をすると直ちに青切符での処理となるのか。」旨の発言があり、警察本部から「制度上の対象は113種類あるが、指導警告で対応可能なものは指導警告を行い、悪質危険なものは青切符での処理となる。」「これらの違反は、これまでも刑事罰の対象であったところ、刑事手続で処理する前に、交通反則通告制度を適用して反則金を支払えば刑事罰の対象としないこととなったものである。」旨の説明があった。

公安委員から「4月1日に青切符適用事例があるか。」旨の発言があり、警察本部から「現時点、青切符適用の報告は受けていない。」旨の説明があった。

公安委員から「自転車を利用する配達員がスマートフォンを自転車に固定して利用しているが、固定していれば問題ないのか。」旨の発言があり、警察本部から「固定していても、運転中に画面を注視すれば違反となる。」旨の説明があった。

6 新入学児童の見守り対策「北九州地区 ONE TEAM 作戦」の実施について

(北九州市警察部)

警察本部から「小学校の入学シーズンに、新入学児童の安全と地域住民の安心感の醸成を図るため、4月6日(月)～5月1日(金)の登下校時間帯に機動警察隊の機動力を活かした北九州地区 ONE TEAM 作戦を展開し警察署の支援を行う。機動警察隊は、北九州地区警察署管内の通学路周辺において、白バイ、パトカーによるレッド走行や声掛け事案等の脅威事犯抑止を念頭に置いた警戒活動を各警察署と連携して実施する。これに伴い、部隊出動式を4月14日(火)に実施する。なお、北九州地区内所属は、令和8年度スローガンに「安全・安心の思いをカタチに 北九州地区は ONE TEAM」を掲げ、各種治安対策をワンチーム

で推進する。」旨の報告があった。

公安委員から「市民の目に見える形での活動は、安心感の醸成につながるため、良い取り組みである。掲げたスローガンの下に効果的取り組みをお願いする。」「地区内が連携し、安心感につながる良い取り組みである。継続的な取り組みをお願いする。」旨の発言があった。